

科目名	中等教科教育法Ⅰ（保健体育）		担当教員	稲垣 良介	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1JTM231
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	教育現場の経験を活かして、中学校保健体育科の授業づくりの基礎を講義する。また、グループワークを通して生徒のつまずきに対する指導法を学習する。				
到達目標及びテーマ	中学校の保健体育授業に関する指導法について、目標、内容、方法を理解し、習得し説明することができる。				
授業の概要	よい授業は何か深く考え、体育授業における観察・評価について学習する。また、体育分野における学習内容である運動の技能習得に関して、ネット型スポーツを題材に、生徒のつまずきに応じた手だてについて理解し、基本的な指導の方法を身に付ける。				

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	保健体育授業の目標
第3回	保健体育授業の内容・方法
第4回	保健体育授業の構成要素
第5回	保健体育授業を支える諸知見及び理論
第6回	授業の観方① よい体育授業とは
第7回	授業の観方② 授業観察の視点
第8回	授業の観方③ 体育授業を評価・観察する
第9回	授業の観方④ 学習指導案の構造と展開
第10回	運動技能の向上とつまずき①球技を例にタブレット端末を活用して
第11回	運動技能の向上とつまずき②武道を例にタブレット端末を活用して
第12回	運動技能の向上とつまずき③陸上競技を例にタブレット端末を活用して
第13回	運動技能の向上とつまずき④技能の上達体系についてタブレット端末を活用して
第14回	運動技能の向上とつまずき⑤ 学習のまとめと意見交流
第15回	授業の総括／保健体育授業の構想と学習者のつまずき／試験

事前学修	2時間	授業の学習内容に応じてテキスト、配布プリントで予習する。
事後学修	2時間	各回の学習内容をノートに整理し、重要事項をまとめること。小レポートに学習した内容の要点をまとめることができるよう整理すること。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	学習プリントの内容30%、課題レポートの内容30%
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業の参加度・授業内の発言内容・試験
定期試験	0%	
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説保健 体育編	文部科学省	東山書房	978827815603	なし
体育・スポーツ・健康 概論	関 朋昭 編	ナカニシヤ出版	9784779517570	なし
参考資料	1, 文部科学省『高等学校学習指導要領解説（保健体育編 体育編）』 2, 鈴木秀人他編著『中学校高校の体育授業づくり入門』学分社			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（保健体育）		担当教員	大宍 貴史	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM232
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	高校教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、保健授業の意義や効果に基づいて、子どもが主体的に取り組む保健授業の企画・立案、及び学習指導案作りを本講義で取り扱う。				
到達目標及びテーマ	本講義では、小学校、中学校及び高等学校の保健授業づくり及び保健授業の企画・立案、指導案作成等の基礎的な力を身に付けることを目標とする。				
授業の概要	<p>第1週から第10週は、前半およそ60分間を保健科教育における基礎理論について、ポイントを中心にレクチャーを行う。講義後半30分では、各グループに分かれ、担当題材に関する保健授業1回分の授業作成（教材研究、配布資料、学習指導案等）を行う。</p> <p>第11週以降では、代表グループに模擬授業を担当してもらう。毎回、模擬授業実施後には、研究協議を全員で行いより良い保健授業にするためには、どうしたら良いかについてディスカッションを行う。</p> <p>具体的には、教師の立ち振る舞い、指導方法及び個人指導、授業内容、生徒の行動変容等、幅広い観点から模擬授業を分析し、より良い保健授業を探求する。</p>				

授業計画	
第1回	オリエンテーション、(保健) 授業開き、児童生徒が主体的な活動とは
第2回	学習指導要領、改定の経緯、趣旨、要点、総則
第3回	レポートの書き方、教育実習の心構え、教育実習時の保健授業担当への課題
第4回	単元目標と到達目標とは、単元目標と到達目標の書き方
第5回	正しい知識をふまえ適切な行動変容の促し方、生徒の生活における行動の目標、生活における行動の目標の書き方
第6回	保健の教材づくり① 教材研究とは、教材研究の意義
第7回	保健の教材づくり② 教材研究の方法及び注意点
第8回	教授技術① 発問、板書、話し方
第9回	教授技術② 作業課題、配布資料づくりの役割及び作成方法
第10回	学習指導案の作成方法① 学習指導案の役割及び作成方法
第11回	学習指導案の作成方法② 学習指導案作成の際、指摘される事柄や留意点
第12回	模擬授業の行い方、小テスト
第13回	模擬授業①「心身の機能の発達と心の健康」又は「健康な生活と疾病の予防」及び研究協議、小テストの解説
第14回	模擬授業②「健康と環境」又は「傷害の防止」及び研究協議
第15回	まとめと試験（保健科教育法改定第3版のみ持ち込み可）

事前学修	2時間	中学校及び高等学校学習指導要領の「保健」部分を熟読しておくこと。保健分野で興味・関心のある内容について、文献やインターネット等で教材研究を進めておくこと、
事後学修	2時間	教育内容の研究と模擬授業で学んだ内容、及び研究協議で行ったディスカッションの内容について、自身の課題を発見し、その課題をどのようにして克服するか検討しておくこと。
フィードバックの方法	小テストは、実施した翌週の講義内でポイントを解説し、学習課題を各自が再度把握すること。まとめの試験に対するフィードバックは、模範解答を作成し、試験終了後に配布・解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	ショートレポート（15%）、グループレポート（25%）

上記以外の試験・平常点評価	60%	小テスト (20点)、まとめの試験 (40%)
定期試験	0%	なし
補足事項	グループレポート作成への未参加、グループレポート未提出者、及びグループレポートを時間をかけて作成されていない場合、他の点数が60%を超えていても単位不認定とする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説-保健体育編-	文部科学省	東山書房	978-8278-1576-4	1年次購入済みの場合は、そちらを使用して下さい。
中学校 保健体育	池田延行	大日本図書	978-4-477-03178-1	1年次購入済みの場合は、そちらを使用して下さい
保健科教育 改定第4版	家田重晴ら	杏林書院	978-4-7644-0540-0	まとめの試験で持ち込み可のため、必ず購入し、毎回講義時に持参して下さい。
参考資料	高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 保健体育編 体育編、文部科学省、東山書房 現代高等保健体育改訂版、和唐正勝ら、大修館書店			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（保健体育）		担当教員	林 陵平	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM233
期待される学修成果	教科教育、自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	教職課程では、学校現場において求められる最低限必要な資質能力を確実に身につけることが必須となる。体育教師に求められる能力としては、カリキュラム及び授業の設計能力、学習者の発達段階や能力に応じた教材開発能力、目標到達に向けた実践能力、授業の観察・分析にもとづく省察能力などが挙げられる。本授業では、これらの実践的能力を身につけ、“よい体育授業”を実践するための学びを深めることを目指す。また、体育・スポーツの現場に関連する問題（体罰・ドーピング・各種ハラスメント）を理解し、問題の本質および解決策について論じることができる。				
授業の概要	本授業では、体育科教育学における“よい体育授業”に関する知見を踏まえ、体育の授業づくりを疑似的に体験することで体育教師としての授業実践能力を高める。また、体育・スポーツの現場に関連する問題について理解する。				

授業計画	
第1回	ガイダンス（学習の進め方の確認）
第2回	中学校（高等学校）保健体育科の目標および学習内容
第3回	“よい体育授業”の条件
第4回	体育の授業における4つの場面
第5回	体育の授業における各種方略①
第6回	体育の授業における各種方略②
第7回	実践研究において有効とされている教材・教具
第8回	授業の分析・省察手段
第9回	問題解決型の思考を取り入れた体育科教育指導法
第10回	子どもの発育発達
第11回	子どもの発達発育を考慮した指導モデル
第12回	運動部活動と地域総合スポーツクラブ
第13回	体育・スポーツに関わる問題点（体罰・ドーピング）
第14回	体育・スポーツに関わる問題点（各種ハラスメント）
第15回	講義のまとめ

事前学修	2時間	学習指導要領解説の該当箇所について事前に熟読し、内容について理解する。
事後学修	2時間	返却された課題コメントを読み、課題に対する新たな考えをノート等に整理する。
フィードバックの方法	提出された課題は全て確認し、コメントを付して返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	80%	課題による評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度および参加態度。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版体育科教育学入門	高橋健夫ほか	大修館書店	978-4469267013	なし
参考資料				

科目名	中等教科教育法Ⅳ（保健体育）		担当教員	稲垣 良介	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JTM234
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かして中学校の保健体育科の授業を実施する際の基本的な教授能力について模擬授業を取り入れて教授する。				
到達目標及びテーマ	中学校の保健体育授業に関する指導法について、目標、内容を明らかにしたうえで、方法について実践的に理解する。学習した内容について、模擬授業で活用することができる。				
授業の概要	各領域の学習指導案の書き方を学び、さらに模擬授業を行うことで、中等教育の体育科教員として保健体育の授業を構想する力を養う。				

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	保健体育科の目標・内容
第3回	保健体育科の方法
第4回	学習指導案の作成に向けて① VTR授業観察
第5回	学習指導案の作成に向けて② 目標設定の仕方
第6回	学習指導案の作成に向けて③ 展開の仕方
第7回	学習指導案の作成に向けて④ 技能の発達
第8回	模擬授業①球技 バレーボール
第9回	模擬授業②球技 バasketボール
第10回	模擬授業③体づくり運動
第11回	模擬授業④器械運動 マット運動
第12回	模擬授業⑤器械運動 跳び箱運動
第13回	模擬授業⑥陸上競技 走り高跳び
第14回	模擬授業⑦創作ダンス
第15回	授業の総括 体育授業の構想と実践/情報機器及び教材の活用法

事前学修	2時間	体育授業の指導案を書くための資料等を収集しておく。配布された模擬授業の指導案を読み、授業の展開について理解しておく。
事後学修	2時間	根拠を明確にしたカリキュラム作成方法を整理しておく。模擬授業とその後の協議会から、授業作りの具体的な方法について成果と課題を整理する。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	レポート課題の記載内容
上記以外の試験・平常点評価	50%	指導案の完成度25%、授業への参加度25%
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説保健 体育編	文部科学省	東山書房	9784827815603	なし
中学校高校の体育授業づくり 入門	鈴木秀人他編著	学文社	9784762028649	なし
参考資料	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（保健体育編 体育編）』			